Eureka Ⅷ

六年制通信　№3　令和２年５月22日（金）号

よく考えて作り上げる

「30歳で終戦を迎え、それまで当然と考え、また教えられてきたことが突如変わった。しかも180度変わってしまったこともある。ちょうど人生の半分ずつを違う価値観の中で生きたことになる。皆さんも今の状態が今後も永久に続くという前提で生きない方がよいと思う」と、だいたいこのような趣旨のことを60歳になったころの講演で山本七平が言っていました。今から40年以上前の講演です。戦前戦後の日本のありようが如何に変化したかという文脈だったと記憶しています。

世界史的な大きな出来事をどれほど見てきたのかと、私自身ちょっと振り返ってみると、9歳でアポロ11号が月面に着陸しています。人類が初めて月に立った瞬間です。いつもは早く寝ろと言っていた父が、これだけは自分の目で見ておけとテレビの前に座らされたのを覚えています。中学に入るころ沖縄が日本に返還されました。浅間山荘事件があったのは同じ年でしたか。よど号の事件はもう少し前でしたかね。そして、ソ連邦の崩壊とベルリンの壁の撤去、チャウシェスクの処刑など、自分の生きているうちはずっとこのままだろうと何となく思っていたことがひっくり返ってしまったという出来事が、30歳くらいに次々と起きましたね。9.11同時多発テロも驚きでした。私はキューバ危機を知りません。それくらいの年代です。そういえばイギリスのサッチャー首相がフォークランドに軍隊を派遣したのは学生の頃でした。あのときは、世界戦争に発展するのではないかという人もいました。

まだまだあると思いますが、それでもこれらの出来事は自分の生活に直ちに影響を及ぼすような、自分の行動に何らかの制限を受けるような、そんな事件ではなかったと思います。そういう意味では、「経験」ではなく「目撃」と言った方が正確でしょう。同じ日本人で阪神淡路や東日本によって大きく生活が変わってしまった人々もいるわけですが、彼らは震災を「体験」したことになります。三重県に住む私はたまたまそういう震災の影響を受けずにすんだというだけですね。

そういう意味で今回のコロナ禍は、世界史的にも、これによって影響を受けた人の数としても前代未聞の出来事です。グローバル社会を目指し文明の利器を発展させたことで、もともと国境などないウイルスに、世界中への移動を簡単に許してしまったわけです。そして今、私たち全員がコロナ禍という歴史的な出来事をリアルタイムで「体験」しているのです。コロナ禍以前と以後で私たちの考え方も行動も変わることでしょう。メディアでは、一刻も早く「日常を取り戻す」べきだという言う人がいますが、恐らくそうはならないでしょう。私たちの手で「新しい日常」を作り上げてい

かなくていけないのだと思います。

やがてワクチンが完成し、特効薬も手に入るようになるでしょう。人々は今回のコロナ禍を忘れ「日常を取り戻す」のかもしれません。しかし、君たちはもう体験してしまいました。ある日突然未知のウイルスが襲ってくること、人間のもろさ、社会の混乱、それらを知ってしまいました。今後、君たちが大人になったとき、社会には知った人間と知らない人間が生きることになります。私たちはコロナ禍を知らずに大人になりました。社会にはコロナ禍を知る人は誰一人いませんでした。しかし君たちが大人になったとき、社会には「知った人間」が多く生きているわけです。責任ある大人として生きているのです。ですから君たちは今回初めてコロナ禍に接した私たち大人よりもはるかに知性的で迅速な行動をとることができるはずです。経験を生かすというのはそういうことでしょう。

学校が始まりました。６月からは平常授業に戻します。そこで、君たちは学校における Educated Action とはどういうものか、それをよく考えなくてはなりません。学校生活も君たちの大切な日常のはずです。その毎日を君たちの手で「新しい日常」に作り上げて下さい。今までの学校生活を検証し、少しでも３密を避けること。いつどのくらい手洗いをすれば効果的か、それにどのくらい時間がかかるのか、どういう行動をとれば自分は感染しないか、また同時に他人に安心感を与える行動とはどういったものか、などなど考えることはたくさんあるはずです。個人の知性ある行動が素晴らしい集団を作ることを示すいいチャンスです。

私は細かい規則が嫌いです。規則が細かくなると例外が多くなるからです。何か君たちの新しい日常から「三重中高モデル」のようなものができるといいですね。

今週のおすすめ

・シェイクスピア　『リア王』　（新潮文庫）

シェイクスピアの没した 1616 年に、わが国では徳川家康が亡くなりました。従ってリア王が初めて上演されたのはだいたい江戸時代の初めということですね。爾来 400 年以上にわたって、わが国でもですが、読まれ観られ楽しまれ続けています。

私は舞台を観たことはありませんが、何度か読んではいます。しかし、正直に言えば（有名すぎてしかも世界的に絶賛され続けているので、少々言いにくいのですが）リア王はもちろん娘たちも家臣も、不自然極まりないと思えるセリフを大切な場面で何度も発しているように思います。要するに「それはないでしょ」と、読むたびに思ってしまいます。道化の登場は当時の宮廷には自然なことらしいのですが、やはり私には読んでいて煩わしいものです。

何百年にもわたって人々を魅了するものに自分が魅かれないことに、多少の不安は感じますが、正直な感想を添えました。とはいうものの歴史的な価値、イギリス文学としては萌芽の時代に英語という言語そのものに多大な影響を与えたシェイクスピアの、もっとも有名な悲劇であることは間違いないので、皆さんも一読してください。

BGM は　柴田淳の　キャッチボール　でした…。